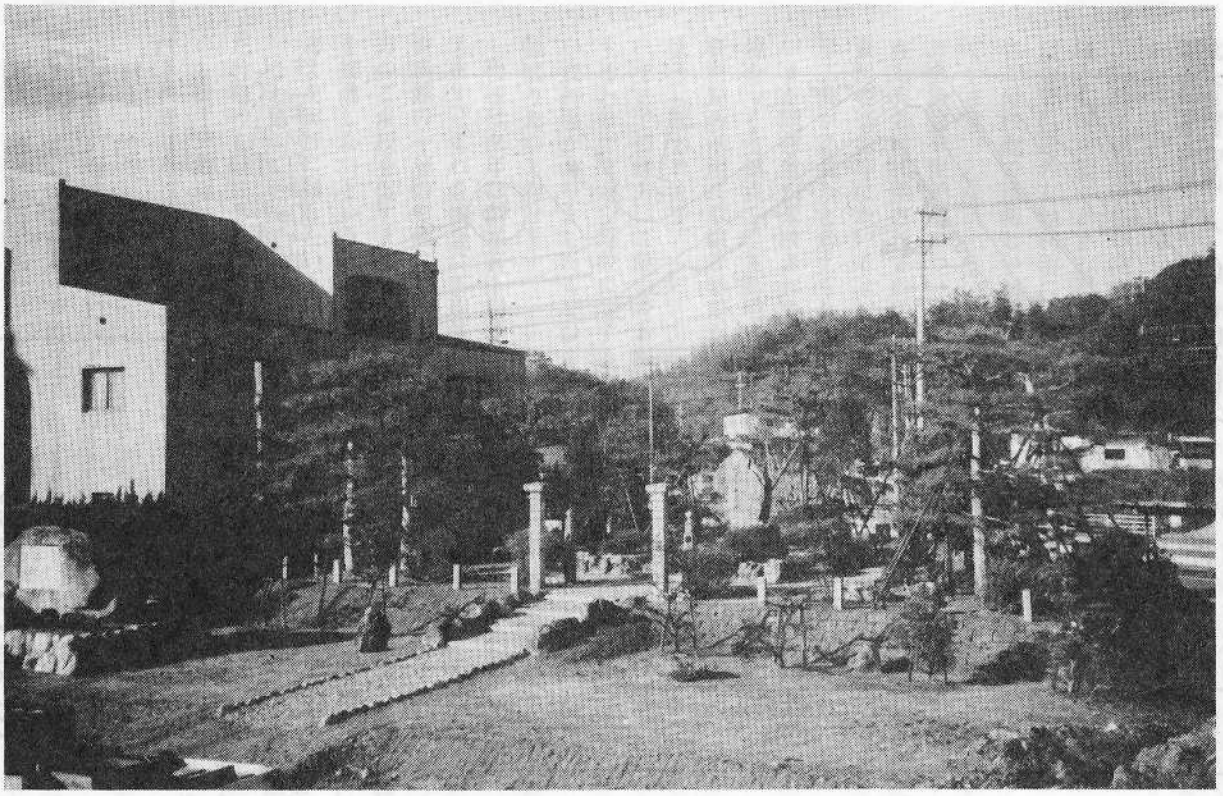
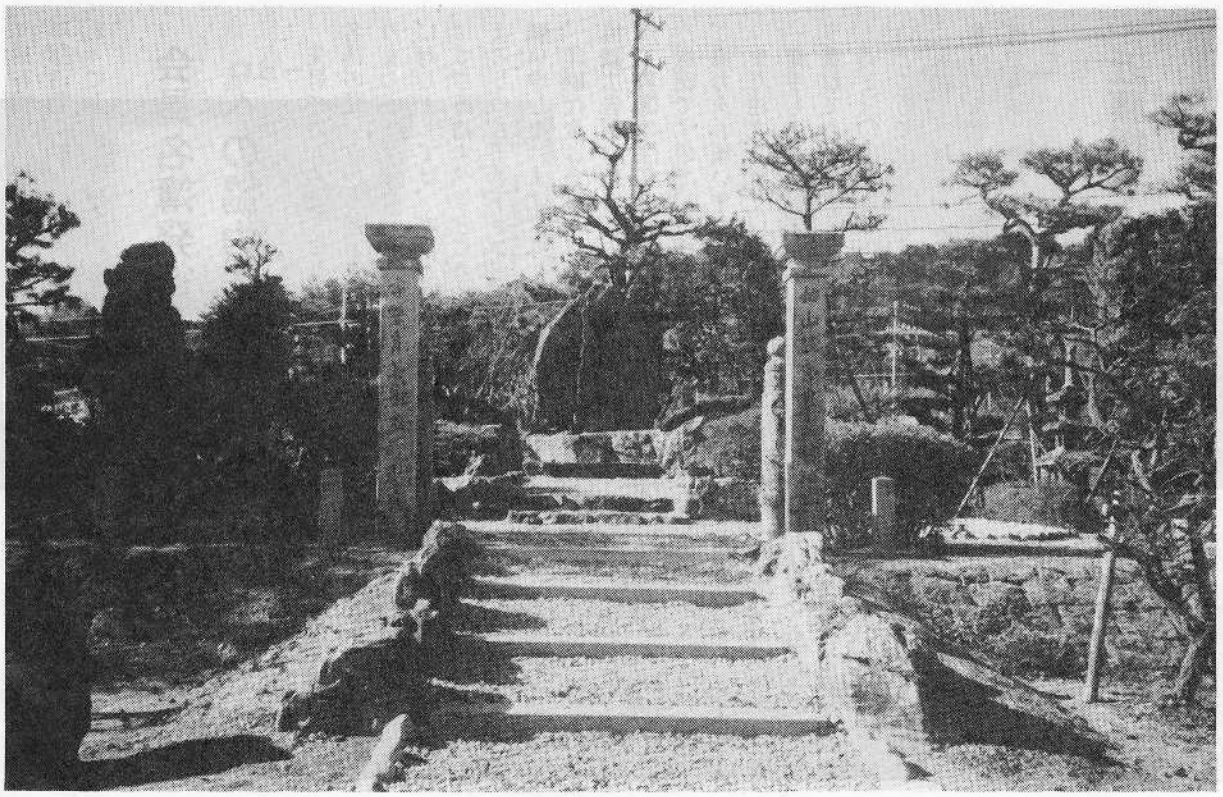
同窓会報

鳥羽商船同窓会
三重県鳥羽市池上町1番1号
郵便番号　517
TEL　代表 鳥羽(0599)25-3137
FAX　鳥羽(0599)25-6941
振替番号　名古屋5－846





移転が終了した近藤先生記念碑

本部報告

近藤先生記念碑移転

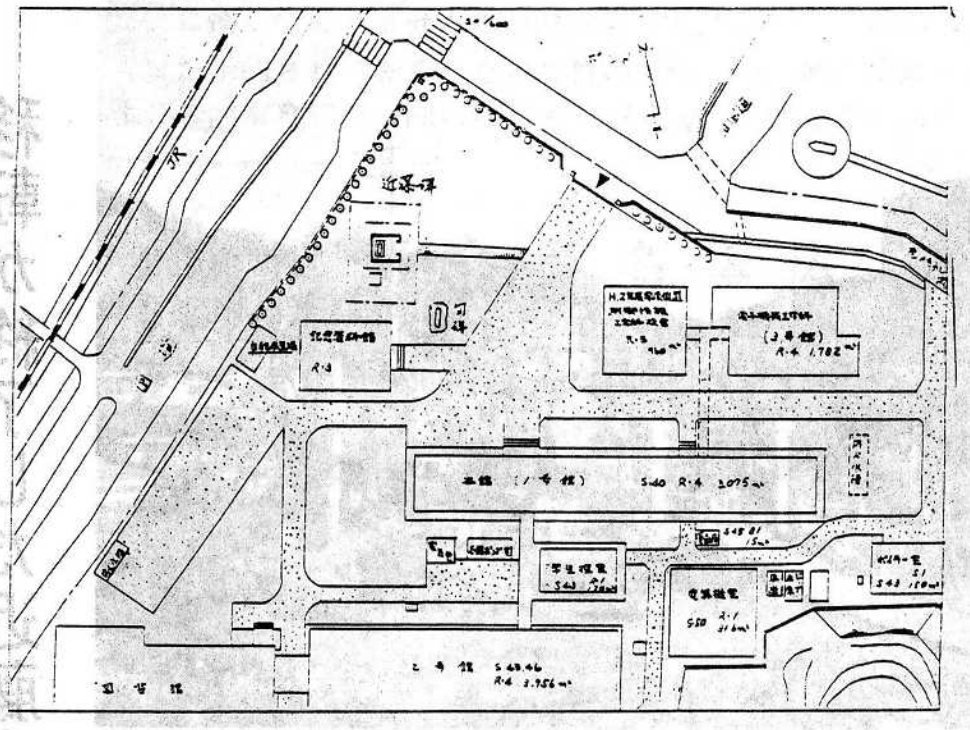
会報を通じ皆様がたにお知らせして参りました、近藤先生の記念碑をはじめ物故者慰霊碑さらには創基百周年の際建立されました、山口誓子先生旬碑等の移転が十月一杯で一応終了しました。

最終的には周辺の環境整備が終了する明年度まで工事の手なおし等が残るかと思いますが、今年度分としては工事が終了しましたので、平成三年二月八日(金)に入魂式を行なうことになりました。

去る八月六日、工事に先立って魂抜式が挙行された際、鳥羽金刀比羅神宮にお移り願った近藤先生なじめ物故者の御霊に再びお帰り願う入魂式が行われるわけであります。

和田会長はじめ関係者一同のご臨席をお願いしておりますので、会員の皆様にも多数ご来校賜ればと思っております。

なお配置図は下記のとおりですが、旧近藤先生記念碑の跡に建設されます、制御情報工学科の研究構の工事も本格的になっておりまして、明年三月末に完成の予定です（多少の遅れは出る模様です）



会員の表彰

運輸大臣表彰

平成二年度海の記念日に際し、左記の会員が表彰されました。会員一同心からお祝い申し上げます。

S21N　長谷川好道

（先号でお知らせするところ、本部情報不足で大変失礼いたしました。）

長谷川会員は多年に亘る海洋少年団活動に対しての表彰を受け賜わっております。

会員名簿発行への協力依頼

先号でお知らせしました新会員名簿の発行が少し遅れることになりました。すでに送金願った会員に対しましては、本来ならば手紙にてご連絡すべきところですが、よろしくご了承下さいますようお願い申し上げます。

印刷代金は会員からの注文と、協讃広告料に頼っているわけですが、名簿の注文が予定の半分という状況ですので、皆様方の一層のご協力をお願いする次第です。

まだ注文されていない方はぜひ一冊手もとにおいて下さいますよう重ねてお願いする次第です。

あと三〇〇冊ほどの注文が欲しいところです。

現在、一月下旬をメドに作業を進めております。振替用紙にて一冊でも多くの注文をお願いいたします。

近藤絹子さん逝去

校祖近藤眞琴先生の直系（お孫さん）として東京に在住されていた近藤絹子さんが去る七月に亡くなった旨最近母校に連絡がありました。

昭和六十一年九月に、近藤先生の百年忌が東京全日空ホテルで営まれました際、近藤家の当主として法要を仕切られました際のお元気な姿が目に浮びます。

心からを冥福をお祈りします。

なお同窓会としましては、母校と相談のうえご香料を送らせて頂きました。ご遺族は

〒一四五東京都大田区東雪谷二丁目二〇番地一五号

中井　周造

智子

となっており、智子さんが近藤家の直系ということになるようです。

大嘗祭

去る十一月十二日、天皇陛下が即位を宣言される大嘗祭が挙行され、内外に大きく報導されました。

昭和四年一月発行の「海友」一〇四号（尾崎幸平会員よりお借りした）を見ますと、昭和三年十一月十日に挙行された昭和天皇の大嘗祭ならびに親謁の儀について、母校における対応が詳しく述べられております。

時代の違いとはいえ、今回の大嘗祭とはかけ離れていることがよく分かります。特に驚くことは、十二月十日に宮中豊明殿における御宴に当時の矢野馬吉校長が招待されていることです。

県立時代とはいえ、鳥羽商船学

校は当時一流の学校であったことが伺えます。

近藤万治会員の支援協力

去る十二月三日付の各新聞で、「なだしお」海難審判庁裁決取り消しに関する記事が報導されました。

「なだしお」と「第一富士丸」の衝突事故については皆さんがご承知の意外な裁決すなわち「衝突の原因は双方の船にあり、過失割合は同等」という高等海難審判庁の裁決に対し、近藤万治船長が裁決を不服としその取消しを高等海難審判庁長官に求めた行政訴訟の第一回口頭弁論が、三日午後、東京高裁第一特別部（山口繁裁判長）で開かれたことが書かれています。

「なだしお」と「第一富士丸」の衝突事故は、国を背景とした海上自衛隊がからむ事件だけに、通常の海難審判とは違った動きもあるように報導されていますが、いずれ、裁判によって明らかになると思われます。

近藤万治会員支援については、名古屋支部クラスメートが加塚伸吾会員を中心として、昭和六十三年に募金活動が展開されましたが、今後も裁判は、長引くことが予想されますので、重ねて会員の皆さんのご協力、ご支援をお願いしたいと存じます。

百周年記念資料館への協力

母校の創基百周年記念事業の一環として建設されました、百周年記念資料館の有効利用につきまして、母校側では新しい対応を考えています。

会議室や宿泊室については、現在も有効に利用されていますが、資料の展示等については、もう一歩工夫が必要かと考えられます。

また同窓生が来校されやすい環境をつくる拠点として百周年記念資料館の活用に取組む必要があるように思われます。

そこで皆様方にご協力をお願いするわけですが、母校に関する古い資料等がありましたらぜひご提供賜りたいと存じます。

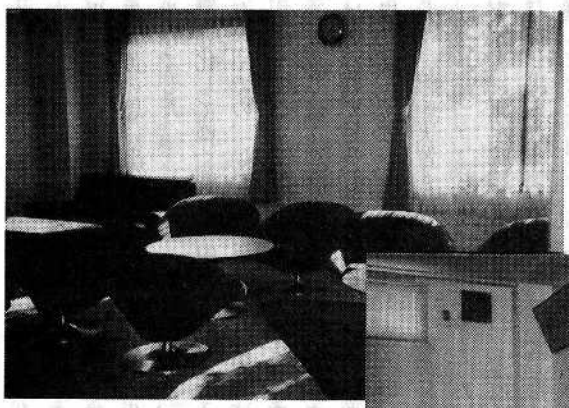
母校は来年は創基百十周年を迎えます。これを機会に百周年記念資料館の一層の整備に努め、皆様方のご来校を促すような体制作りを推進したいという手塚校長のお考えを実行に移したいと思います。

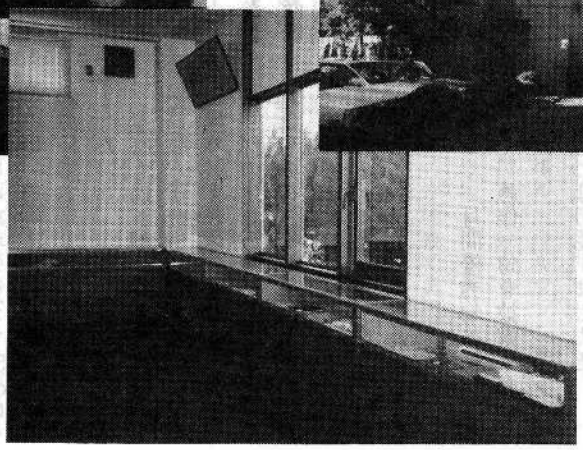
なお鳥羽にお出での際はできるだけ母校を訪問されますようお願いします。最近は左記の方々が来校されました。（敬称略）

村上　堯（S10N）
さむらい会御一行（S11NE）
大辻善久（S42Nカナダ在住）
村井　憲治（S19E）
上野　和泉（S19E）
上村　賢治（S$\frac{5}{12}$E）
山田　岑生（S37E）
菅沼　延之（S48N）
森川　勉（S60N）
中西　泰規（S60N）
安田　洋（S42E）
中野　清文（S21N）
濱口　潤基（H1E）
井上　勇人（S63E）
関谷久仁志（S60N）
塩田　寿哉（S58E）
小島　大（S58N）
豊田　宏（H1N）
中塚　達也（H1N）
福田　裕司（H1N）
日下　耕三（S61E）
横田　晃史（S61E）
岡崎　吉則（S50E）
松本　吉生（S50E）
溝井　昇（S42E）
鈴山　直樹（S59E）
佐藤　昌弘（S60E）
上村　健太（S63E）
松田　尚也（H1E）
河口　賢（S63E）

今後来校される方は、本部事務局員である。落合、斉藤、中村、世宮のところに顔を出して下さいますようお願いします。会報で周知したいと思います。

全景


ロビー


一階展示室

支部だより

京浜支部

千々波天信支部長

八月十六日総会の報告会を行ないましたが、これからもっと学校ともコミュニケーションを良くし、同窓会として同窓卒業生の接触を拡大、充実を図ることとし、手始めとして、京浜支部から一名、卒業式に出席することにしました。

此れから卒業生の多くは京浜地区で就職することになると思いますが、大いに先輩を頼って相談されるようになれば、同窓会としても存在価値が出てくると存じます。遠い親戚より近くの他人と、大いに活用して下さい。

今年は当初から、本部総会があるので京浜支部総会は取止めと決っていましたが、長年同窓生がお世話になった今佐本店も粧いを新たにするため、取壊しとなるので「さよなら今佐と忘年会」を兼ねてやろうとの声があり、S十七～十九年を中心にS十一～四十年位までの人に集って頂き、忘年会を十二月二十九日に行う事になりました。

静岡支部

支部会員の近況報告を以て活動記録といたします。

S8N　豊田町　永井小太郎

当年77才を過ぎ、何事もできず、目下、息子に譲り平凡な日々。

支部の益々のご発展を祈ります。

S18N　静岡市　苗村　茂吉

お忙しい公務の中、静岡市支部のため時間を割いてご尽力頂き厚く御礼申し上げます。小生はS22～S29年の7年間の療養生活を送り、爾後、海上生活に見切りをつけ、陸上生活に専念、現在に至っております。今春、初孫にも恵まれ、大過なく過ごしております、他事ながらご安心下さい。

8月4日、静岡市在住の鷲尾君とお会いして、旧交を温めて参りました。

小さいながら会社に関係していると、私的に使える時間がとれませんので、静岡市地区のまとめ役をお願いしておきました。

S19E　静岡市　鷲尾　松久

長年の船ヘン生活から足を洗い、3～4年前から郷里に帰って来ました。蓄財の才がなかった分、時間だけはリッチな隠居暮らしですが、小学校の友人から、油絵の道具一式を頂戴しながら進歩なし、旅行の度に手漉きの和紙を買い集めても、なかなか墨をすらず、川柳の師匠に勧められても、もっぱら嫌味な評論家顔、碁会所に行けるほどの腕でなし、友釣りに熱くなって、冷え、スターンチユウブが脂ぎれ、それでもこりずに次には鮒釣りでも……と師匠を物色中です。

過日、1年先輩の苗村さんと、卒後初対面。クラス会のVTRに、諸先輩の昔の面影とゲンコツの味を思い出しました。

声を掛け合えば、45年をタイムトリップすることもできるのに、苗村さんには長年のご無礼を陳謝、大いに反省しています。

今後は、乾燥気味の潮気を取り戻して、支部の雑用でも協力させて頂くつもりです。

よろしく。

S19N　静岡市　岩田　敏夫

世界の海を雄飛する、スマートな商船仕官を夢見て難関を突破して入った商船学校でしたが、入学式の翌日、猛烈な苦しみを味わい、寮の箱ベットの上で、激しい腹痛に呻吟しました。盲腸炎でした。即入院。宇治山田の病院で手術しました。別れたばかりの母が慌てて駆けつけて、知らない土地の病院でつき添ってくれました。約一ケ月の療養で学校に戻りましたが、スタートでの一ケ月の躓きは大きなハンデでした。

それにもまして、厳しい寮の準軍隊式生活にはいささか参りました。三年間苦い思い出ばかりの残る学校生活でした。

次第に悪化してゆく戦況の中で、横須賀海兵団での、しごきの新兵教育、

終わって乗り込んだ海王丸は、マストは切られて見るも哀れな姿で、石炭を運んで瀬戸内海をウロチョロして、帆船実習も終りでした。

汽船実習も、麗水航路を一航海で終了。押し出されるように繰り上げ卒業しました。

しかも、学校から命ぜられるままに配属されたのが、郵船・商船・三井・川崎等の一流会社に比べると、月とスッポンの小会社で、改E（戦時標準船880トン）数隻、機帆船に毛の生えたような200トンの貨物船一隻を有するのみもタンカー会社でした。まったく幻滅させられましたが、戦争中のこととて文句も言えず、そのタンカーに乗って、内地の油槽所のある港を運航していました。

終戦直前、広島沖を航行中、P51に撃沈され宇品に上陸、原爆投下数週間前に帰郷しましたが、この時ばかりは、幸い一命を拾ったと思っています。

家も焼かれ、家族で疎開した蘭科川の山奥で終戦を迎えました。

平和の到来。海運会も次第に復興し、大型船の就航もボツボツ始まりましたが、あいかわらず小型タンカーにのって、近海航路に従事し、遂に過労でダウン、二年間の病院生活と長期の療養生活を強いられ、この間に完全に潮気は抜けてしまい、後は陸に上がった河童です。健康回復後は、二度三度と職を変え、最後に薄給で有名なNHKのサービスセンターに就職し、船ならぬホンダカブ50ccのバイクで、静岡市周辺を調査及び契約の仕事で走り回り三十年が過ぎました。

還暦も過ぎ潮時を感じすんなりと退職、年金生活に入り現在に。

振り替えれば、これが私の実力精一杯の生き方だったのかと、最近は冒頭の三文字も薄れた心境となり、今後は美しく年を取りたいものだと、せめてボケ防止に時事川柳など投稿して楽しんでおります。

珍しく、月間優秀句に採用されたので、愚作一句を披露させてもらいます。

むつよりも　ましだと
粗大ゴミをだし

S19/12N大仁町梶山　数雄

60年7月退職。少しばかりの田圃と畑を耕作しています。現役当時はそれぞれ職種の異なった者が、停年百姓、同じ環境にある仲間ができて、晴耕雨読とまではいきませんが、楽しくやっています。

S20N　浜岡町　村松　義郎

63才になり、過ぎし日を偲びつ

つ、毎日健康で農業に（お茶、田んぼ水稲）いそしんでおります。

家族構成は、我々夫婦と長男夫婦と3才になる孫が一人。（来年の正月にもう一人出産の予定です）また92才になる母と6人家族で、毎日楽しい日々を送っております。

また農業をやりながら、冬場には浜岡原子力発電所に勤めており、若い人達と働くのを楽しみにしております。そしてあと二、三年で母屋の新築も計画している昨今です。

S21N　菊川町　村松　甫徳

戦時中だけでなく、戦後も練習船日本丸や、アップレンチスとしてリバティやLSTに乗船していたときは、夢や希望もありましたが、全課程修了、海技免状を取得したときには、船会社の募集もなく、『日本は海運国だから、必ず良くなる』という先輩の声や、学校からの手紙だけでした。

止むなく中学校の英語科の教師となり、時期を待つことにしました。数年経過しても大型船の募集はなく、焼津や清水の漁船の船長の募集だけでしたので、志を変更し、大学へ編入学、中学・高校の社会科・英語科の免許状を取得し、教師の道を進むことになりました。

あれから38年教壇に立ち、今は年金生活に入っています。現在は、日中は教育委員会のお手伝いをして、夜間は週三日英光学院（生徒数520名）の講師として進学指導をしています。

私は、進学できても就職できなかったが、今の生徒は進学できれば、希望の職業につくことも可能な世の中です。全員希望校に入学できるように、学力アップを目指し、一生懸命努力しています。

同窓会名簿を見ると、皆さんが船会社や、関連会社に就職していることを、非常にうらやましく思います。

私は今でも海が好きです。

今でも、海で生活したかったと思っています。

S21N　静岡市　西村　隆治

扨て、ご丁重なを案内をいただき、恐縮至極に存じます。私、昨年三月末をもちまして、海上保安庁を定年退職致しました。37年間の在職中、北は稚内から南は沖縄本島まで、実に17回転任致し、最終勤務地が清水保安部で、巡視船『おきつ』に乗船しておりました。

退職後はしばらく休養をと思い、再就職は致しませんでしたが、特殊勤務が長かったせいか、未だに妻と二人で、国内外の旅行を楽しんでいる次第です。

S21N　浜松市　森山　久

お元気でご活躍の由、また支部の仕事にご尽力下され、誠にありがとうございます。

お陰様にて今のところお医者様とも縁薄く、元気にやっております。

サラリーマン生活（最終ヤマハ）も終え、自由な身になりましたので、市内の公民館へ、あれこれと（古典文学、書、水墨画、表装、等）通っており、たまには同好の友と旅行などと、日々私なりに楽しくやっております。

S22N　磐田市　永田　修一

小生旧姓大桑です。席上課程、S22。練習船、航海実習で一服して全科卒業はS25年。S26年、大阪商船入社。船長を経て、S54年『（株）テクノ中部』に入社。

現在、渥美半島、伊良湖岬の北側にある中部電力、渥美火力発電所の桟橋で、Berth masterをしています。単身赴任です。

結婚以来35年、単身赴任の連続です。商船学校に入って、上級生の洗濯、縫い物を始めて以来今も続いており、身の回りに不自由はなく、粗大ゴミの心配不要です。

定年まで後2年、63才まで頑張る予定。

S22E　静岡市　小林　三郎

同窓会の件、ご尽力に深く感謝しております。これからもどうぞよろしくお願い致します。

一層の御元気ご自愛をお祈りしております。

S22E　浜名郡可美村　佐野　庄市（山下）

卒業してから静大教育学部へ行き中学校教員を36年間勤め、退職して、現科学館へ非常勤で通っています。週三日休みのゆったりした生活です。

家の事、子供二人とも大学を卒業して社会人。長男は銀行マンです。

趣味はいろいろありますが、木工芸に特に力を入れていて木曾桧材を使って、正座用の小いす（民芸調）を作っています。特許庁意匠登録、787686号。

他に水彩画、習字、ビデオ写真、囲碁、釣り、園芸（花、野菜両方）など楽しんでいます。そのうち個展を開きたいと考えています。

思い出は戦争の暗いイメージと重なり、つらく苦しかったことばかり。　思い出したくありません。

S23N　三ケ日町　佐藤　斗一

現在、上記会社（コックス、アンド、アソシエイツ、ジャパン）からリベリア戦籍の船の航海関係の検査に出かけます。また別の会社の仕事として、タンカーの安全監督として、WORLD WIDE SHIPPING HONG KONGの船に、日本の港で荷役中乗船します。忙しい時には体が三つほど欲しいと思いますが、平均すると月に一回か二回の出動で、日数にして一週間くらいです、自宅から要請のある時出動します。また農作用にも自家用車として事します。

特に趣味という程ではないですが、ゴルフと囲碁、相当下手ですので、またチャンスがあればご指導下さい。末筆で恐縮ですが同窓会のますますのご発展を祈り、返事とさせて頂きます。

S23E　稲取　斉藤　博隆

青春の賦

『青春の賦』を知ったのは、十数年前のある結婚披露宴の席上であった。会社のある先輩の祝辞のなかでこの賦が見事に引用された時、激しく心を打たれた。翌朝、昨夜の賦は素晴らしかった、我々中年の出席者まで感動させられた、つきましては作者は誰ですかと、先輩のところえ押しかけた。

サムエル・ウルマン　米国心理学者・詩人と分かったが、余り著名でないらしくそれ以上のことは調べるのが困難であった。

『青春とは、人生のある時期を言うのではなく、心の有様を言うのだ。（中略）年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いが来る。歳月は皮膚の皺を増すが、情熱を失う時に精神はしぼむ。人生への歓喜と興味。

（以下略）……』

苦難に屈しない、人生に対する情熱の絶え間ないみずみずしさ、基本的に人間というものを信ずる素直で前向きの姿勢、これが青春を保ってゆく秘訣であることを、美しく表現している。あの頃、中年の曲がり角に立っていて、心の屈することを経験していたのであろうか。

人は生きる限り、人に頼らず、身だしなみに気をつけ、一生涯努める。そして、心身を救うものは自ら以外にないと思い定めることであろう。

そのような意味から『青春の賦』が人々に愛誦される世の中を目指したいものである。

S26E　焼津市　堀　三矢之助

小生は現在焼津水産高校に勤務中でありますが、S26年本科、S28年全科卒、大洋漁業、大都遠洋漁業の鮪船に14年間乗船し、S43年より上記水産高校機関科教諭、S63年より同校実習船の機関長として乗船中です。クラスメイト各位が2～3年前に定年で第二の人生に挑戦中、あるいは悠々自適の生活を送っておりますが、小生もあと一年半で定年退職です。そろそろ後のことを考えなければなりませんが、やはり暫くは充電が必要ではないかと考えております。同窓会の雑用でもできることがありましたら、お手伝いできたらと思っています。

S30E　静岡市　杉本　滋弘

現在子会社の中外商船㈱に出向中です。

本年六月二日、焼津市の保険寮で航機合同のクラス会を行しました。さすがに現役の船乗りは少なくなりました。

S43N　蒲原町　梅島　正

平成元年五月末で昭和海運㈱を退職し、船員生活を廃業しました。

現在は清水港で、東燃㈱関係船の内航、外航代理店員として働いています。

20年を船員として過ごしました。これからの20年は陸上のサラリーマンとして、陸上生活をエンジョイしたいと思っています。以上（趣味）スキー、年三回程度しか行けませんが、足前は中の上と思いこんでいます。

アマチュア無線、最近はほとんど波を出す時間がありません。

カヌー、平水で楽しむ程度です。

S50E　静岡市　鷲巣喜代志

私、現在（社）日本自動車販売協会、静岡県支部におります。鳥羽で学んだ?ことより今の仕事の方が永くなってしまいました。車のことで解らないことがありましたら、多少なりとも協力できると思います。（新車を買うとき、〈中古車も〉名義を変えるとき、現在の車を使わなくなったとき）

趣味で、鮎の友釣りをやっています。

狩野川には出かけますので……。

S43N　御前崎　横山　良一

沼津での支部設立総会の折り出席致しました。

ナビックスライン（旧ジャパンライン）の船員グループに本社勤務中で、家族とともに横浜の社宅に住んでいます。

来年には本社勤務も終え、御前崎に帰って、海上勤務（乗船）になると思います。

総会準備でお忙しいことと思いますが、総会前後に同好の志をつのってゴルフコンペでも行えば、なお一層盛り上がるのではないでしょうか。

S47N　浜松市　小久江光次

只今単身赴任で鳥羽におりますが、近いうちに静岡に帰れそうです。その節には同窓会静岡支部の活動に、私のできる範囲で参加させて頂きたいと思っております。

よろしくお願い致します。

単身赴任ではありますが、土、日、にはほとんど浜松に帰っておりますので、総会等の機会には、是非お誘い下さいますようお願い致します。

名古屋支部

山本茂支部長

(1)　平成二年八月一〇日、名古屋港の「浜鮨」で去る五月一九日開催されました。名古屋支部総会で改選された役員の顔合せを兼ねて役員会を開きました。

山本支部長より七月二二日ホテルマリナーズコート東京で行われた。平成二年度本部総会の議題並びに会長、学校長挨拶の要旨の報告がありました。

会長挨拶で述べられた今後の同窓会の在り方について意見の交換が行われました。

(2)　平成二年九月二一日母校で商船学科卒業生の「卒業証書授与式」が挙行されましたので当支部から村井憲次、本部副会長と、山本茂支部長が出席致しました。

式典の後開かれました卒業祝賀パーティーで卒業生や父兄とたのしく歓談したり、又愛知県、岐阜県の出身者に集まってもらい「名古屋地区在住者名簿」をわたして名古屋支部の存在をPRすると共に、今後若い力で名古屋支部に活力を与えてくれる様に要請いたしました。

(3)　日本丸入港

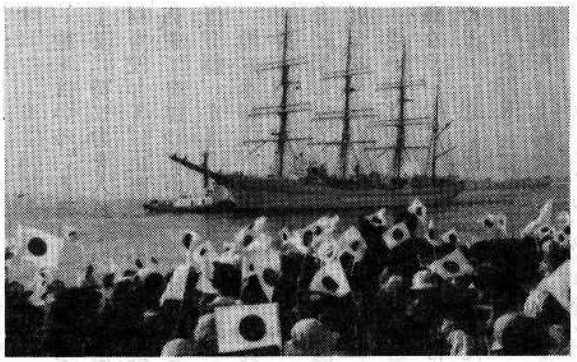
平成二年一一月二二日、日本丸が商船高専の実習生㈱六〇名㈱一六名を乗せて名古屋港に入港致しました。

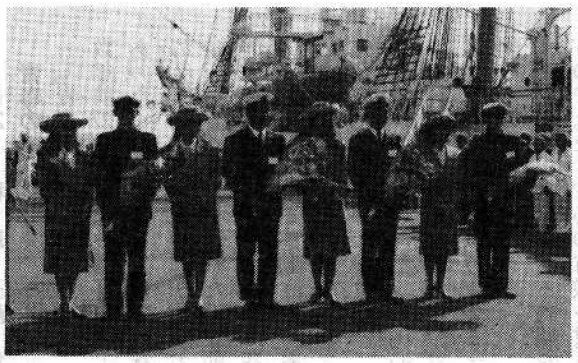
今回の寄港は名古屋港がボルチモア港と姉妹港提携五周年と南極観測船「ふじ」がガーデン埠頭に永久けい留され「南極の博物館」として開館五周年を記念して名古屋港管理組合が招いたもので、県警音楽隊の歓迎演奏する中、一〇時にガーデン埠頭に接岸いたしました。

一〇時三〇分より歓迎式典が船側岸壁上で催され船長、機関長、実習生代表にミスポートオブナゴヤのお嬢さん方より花束の贈呈がありました。実習生の代表として本校の㈱森吉直樹㈱前川浩一の妻君が花束を受けとりました。

式典の後、関係者一同実習生の案内で船内を見学、私も四〇年ぶりに練習船のデッキに立ち、かつて自分が練習生であった頃の事を想いおこし感慨無量の境地で、練習生の説明を聞きながら見学を終えました。

二二日㈮、二五日㈰には船内を一般市民に公開されました。両日





日本丸名古屋港に入港風景

とも秋晴れの晴天に恵まれましたので見学者は二三日八、〇〇〇人、二五日、四、〇〇〇人と大変な人気で、船側は順番を待つ見学者の長蛇の列が出来ておりました。五日一三時よりセイルドリルが行れましたので、帆船の華麗な姿を一目見ようと数万人の市民が、がーデン埠頭に押し掛け、黒山の人だかりとなる盛況でした。

最後になりましたが、当支部として日本丸の寄港を歓迎して乗船員一同にジュースを差し入れました。

今後同船及び「しんかい六〇〇〇」の活躍に期待が寄せられます。

支部事務局

四日市支部

会員の皆様お元気でご活躍のことと思います。四日市で最近の話題としては、海洋科学技術センター所属の新鋭深海探査船母船「よこすか」が入港し、一般公開されたことがあげられます。

「よこすか」は「しんかい六〇〇〇」の母船として建造されたばかりのいわゆるハイテク船で、我が国の海洋観測船としても第一級の設備をもったもので、まさに動く研究所といった感のある船であります。

十一月二十二、二十三の両日は大勢の見学者が同船をおとずれましたが、我が国周辺における海底資源の調査や海洋調査において、

関門支部

和田道夫支部長

師走に入り寒むさも次第と身にしみるこの頃となりました。

さて、本年度同窓会を去る十一月二十四日別府船員保険療で開催致しました。出席者は左記の通り九名でした。

当支部では他支部と違い九州方面在住者も大へん少なく出席者の少ないのも止むを得ません。

南、田畑、大石、早津各氏には毎回ご出席いただき感謝致しております。

来年度同窓会は門司のめかり山荘で開催する事になっております簡単ですが以上ご報告申し上げます。

出席者

南　兵二（S4E）田畑　秋一（S6N）大石　信（S9E）和田　道夫（S10N）早津辰海（S11E）小橋　烝治（S21N）吉崎　又彦（S21N）三角　晋平（S32E）山田　昭博（S44E）

大阪支部

一、平成二年十二月三日(月)大阪市中央区「鳥よし」にて大阪支部幹事会兼忘年会を開催致しました。

当日は、支部幹事及び本部発行予定の会員名簿に掲載広告で御協力頂だいた方々にも呼びかけ、十三名の方の出席がありました。

島田会長の挨拶があり、会員名簿発行及び広告掲載等連絡事項がありました。大阪地区は、本部より二十口の割り当てがありましたが皆様の御協力をたまわり二十三口も集まり、大阪支部の面目を得られた。

また平成三年へ向けて支部活動を更に盛んなものにすべく、来春再度幹事会を予定し、支部総会の開催日などについて話し合う予定です。その後会食となり、大いに盛り上がり、納会となりました。

当日の出席者は以下の方々です。

18N小原　博　18N中西　勧
21N島田　昭三　21N古妻　秀夫
21N小泉　博　21E向井　源一
27E金澤　恒男　32N大江　勲
34E奥野　明　37N野尻　進
52N岡室　孝美　52N田中　潔
53E板東　秀樹

二、正成二年十二月十二日(水)58N国安　政幸君の尽力により、大阪港周辺の勤務者で若年を中心とした忘年会が、大阪船員会館で開催され、十三名の若人が出席致しました。各々官庁、倉庫、港運等の職場すなわち仕事上でも関係があり、ヤングビジネスマンよろしく。名刺交換も慣れた手つきで、笑えましく思えました。同窓の皆様彼らの将来は前途悠々です。その後二次会となり二十三時三十分開散となりました。

「冬の築港、若人大いに語らう」でした。

以下出席者

52N岡室　孝美　52N田中　潔
55N宮本　一彦　55N村田　佳久
55N山田　晃三　55E野口　靖司
56N坂田　守　58N国安　政幸
58N柴田　孝則　60E西　和人
61N河南　泰彦　H1N水木　伸
H1N板東　栄俊　以上

支部事務局員（田中　潔記）

神戸支部

大塩重夫支部長

訃報

鳥羽商船同窓会顧問の岡崎武義氏（S2N）は、かねて病気療養中のところ十一月二日午前五時逝去されました。

喪主（長男）順応氏により、十一月四日吹田市千里会館に於いて、会葬者多数参列のもと、しめやかに葬儀が行われました。

同窓会からも花輪、弔電が贈られ、会員多数が参加して、永久の別れを告げました。

生前、氏の海運界並びに同窓会に対する御活躍を心から感謝しつつ、ここに謹んで哀悼の意を表し、心より御冥福を祈りつつ皆様にお知らせ申し上げます。

盛大になった神鳥会ゴルフ友の会

ゴルフの愛好者達が、親睦の意味も兼ねて昭和五十九年からスタートしたこの会も間もなく八年目を迎え、近年は益々盛んになってきました。

当初は、現役の人達で構成されていたメンバーも、昨今ではシルバーパワーが大半を占めております。各クラス会も大変盛大のようですが、大先輩・後輩が和気あいあいとプレーを楽しみ、終われば一風呂浴びて、ビールやジュースで談笑するのも大変愉快な一日です。

会のお世話は会長高山逸治（S8E）と幹事大塩重夫（S22E）がお世話をしておりますが、その他の会員は次の通りです。

山本醇平（S19N）神沢重司（S19-12N）鈴木　詮（S19-12N）中村三喜雄（S19-12N）広田政男（S19-12N）山中晴幸（S19-12N）川村一男（S19-12E）長谷川好道（S21N）松本茂

（S21E）高橋忠夫（S26N）久保山茂（S26E）梅村伸雄（S27N）黒田章三郎（S27N）飯山嘉昭（S27E）桑島収平（S31N）飛田喜八郎（S36E）

伊勢志摩支部

☆マリン文学フェスティバル開催

昭和二九年、三島由紀夫によって、神島を舞台とした「潮騒」が発表され、鳥羽は一躍その名を全国的に広げました。

このたび、鳥羽市では全国で初めて、「海」をテーマにした小説を広く全国各地より募集する第一回鳥羽市「マリン文学賞」を制定し、このほどその発表会が開催されました。

十一月四日の受賞者表彰式には、左記の選者が、出席されましたが、そのうちの一人、谷　恒生氏は本校（S39N）の卒業生であることは、鳥羽にとっても、母校にとってもこのうえもない嬉しいことと関係者一同心から喜んでいます。

選考委員

阿刀田高　北方謙三
谷　恒生　宮原昭夫
山崎洋子

受賞者

大賞「望郷」
嘉野さつき　米国在住
入選「潜士の源造」
阿部　幹　青森県八戸市
「さよなら海うさぎ」
久生　哲　埼玉県熊谷市
「散華之海」
森岡　泉　大阪府大阪市
「ローズマリーン」
長谷佑季　兵庫県神戸市

なお佳作入選の長谷佑季さんは、派遣教官として山下新日本汽船から出向されていた、長谷　登教官（現内海水先人）のお嬢さんで、受賞式、祝賀パーティーには、長谷教官ご夫妻も出席されました。

選考委員谷　恒生会員を囲んで安楽島の「華月」で歓迎会を開催し、同氏のご活躍の様子を伺いました。

出席者
学校　長尾教務主事
同窓会　落合弘明　斉藤　隆
中村武史　世古利郎

マリンフェスティバル懇親会

谷　恒生先生を囲んで

☆天皇皇后ご来勢

大嘗祭の報告すなわち親謁の儀のために、天皇、皇后両陛下が、十一月二十六、二七、二八日の三日間伊勢市に行幸されました。八千名という三重県始って以来の厳重な警戒体制が施されましたことは報導によりご承知かと思います。

秋篠宮、高円宮ご夫妻も行事に参加され、両ご夫妻の宿舎に鳥羽国際ホテルに当てられた関係で、二七、二八日の両日、母校前を三回通過され、多くの教職員、学生がお目当の「紀子さん」を歓迎しました。

クラス会

さむらい会

十一月九日（金）、本年度さむらい会を母校の所在地鳥羽において開催した。

会場はなつかしい駅前の錦浦館で、東西からはせ参じたクラスメートはいずれも元気そのもの、毎年のように逢っていても実に楽しそうである。

一年のせいかアルコールの量はやや減るのではと思ったのは幹事の思い違い、大いに飲み大いに談りで、酒量は予定以上となったのはたのもしい限りである。

母校に勤務する後輩の落合教授が地酒の差入れで表敬訪問してくれるという一幕もあった。

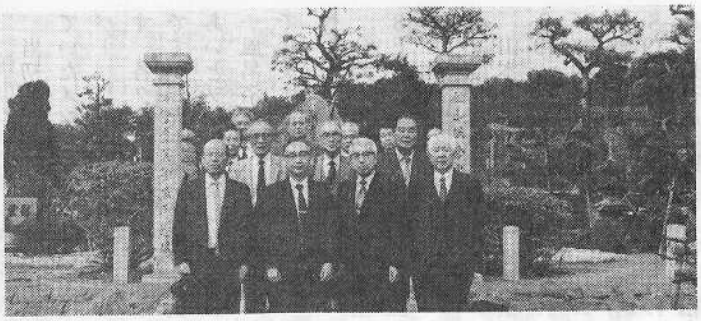
翌日、在学中にストライキで立て籠った樋の山に登り、五十年以上昔の思い出に浸った。あのストライキはだれが主者であったかということは、結局いまになってもわからなかったので一同大笑いとなった。

このあと母校を訪問、移転の終った近藤先生記念碑前で記念写真をとり、手塚校長、野明事務部長以下関係者の手厚いおもてなしを受けた。

女子学生も多く、時代の移り変りの激しさに面くらう感も強かった。

スカイラインを経て内宮を参拝真新しい宇治橋に触れて過ぎし青春を思い起した。近鉄宇治山田駅前の大黒屋で中食をとり、来年の再会を約して散会した。

出席者
N科大沢　松一　神谷　義康
河村　定雄　久保士朗平
和田　春生
E科坂田　薫　鈴木　次郎
早津　展海　橋本　忠
島田　博之　楠本亀之助
（楠木記）



新しい近藤先生記念碑前にて

十五年卒
卒業五十年目のクラス会

官立一期生　加藤卓雄

官立一期生（昭和十五年三月席上課程修了）のクラス会は修了後五十周年記念として、思い出の深い鳥羽志摩地方と松阪地方を周遊して行なわれた。日程は平成二年十月二十五日から二十七日までの二泊三日であった。

参加者は永谷茂君と夫人、西岡光雄君と夫人、宮増一郎君と夫人、前田博君、松岡清三郎君（以上N科）、小海途嘉君、宇田啓三郎君、船木照生君と私、加藤卓雄（以上E科）で夫妻参加三組六名、単身参加六名計十二名であった。

不参加者は室谷六雄君、小海途靖君、向原誠也君、中村正司君、奥川秋一君ら五名で夫々不参加の御事情があったものと推測している。

今回のクラス会は七回目であるが五十周年記念クラス会という呼びかけをしたところ、永谷君は夫人と共に遠く秋田から、宮増君にしても千葉の佐原から夫人と共にはるばる参加され他の人達も大半が京浜・阪神方面からで遠来の参加となり改めて学校時代の友情の深さを感じた。

顧ると我々は五十年前、行く手には第二次世界大戦という巨大なブラックホール!!が待っていようとも知らず、希望に燃えて鳥羽商船の学び舎をあとにしたのであったが、全課卒業と前後して太平洋戦争が始まり、多くのクラスメートの若い命を南溟の海に失い深い悲しみとともに慨嘆にたえないところであった。そして終戦、来る船もなければ職もなく暗い時代の幾歳月を経て経済復興と共に漸くひのめをみた。ここにこうして一堂に会して五十年目のクラス会を開き語り合う機会を得たことは万感胸に迫るを覚える。

併し乍ら、我々も早や古稀の年令に達しつつあり人生の最後のハードルを超えんとしている。

子日「七十而従心所欲、不踰矩」孔子のお詞に従えば吾々の面々に七十年の風雪を経て円熟した人柄がひめられているようであった。そうして五十年目再会を喜び合い和気藹藹の中にクラス会を満喫した。

第一日目　十月二十五日

五時前後に我々は志摩郡阿児町の志摩観光ホテル賢島荘に旅装をとく、皆んな元気だった。一年以も合ってなくても一目会えば!!やァやァ!!のかけ声でもう一ぺんに打ちとけ合う。クラス会ならではの光景である。

六時から宴会が始まる、クラス会にしろ同窓会にしろ宴会が盛大でなければ意味がない。新鮮な魚介類と各種のアルコールを次々と味わい乍ら話は尽まない。そして宴も盛り上ると懐しい歌がとび出て賑やかになる。

みんな順番にかくし芸に入るが、中でも前田君の歌謡曲は素人ばなれをしていて、その美声にうっとりとする、また、宇田君の扇舞は本格的な習練を経て堂にいった手足の動きに感動した。アンコールが続く中で年を忘れ夜の耽けるのも知らなかった。

第二日目　十月二十六日

昨夜来の篠つくような大雨もすっかりやんでここ賢島の空はぬけるような秋晴れになっていた。それ故木々の緑、海の青さが格別に美しく映えていた。

今日一日は志摩から鳥羽へそして松阪へとドライブすることとなり船木君の新車クラウンとジャンボタクシーに分乗する。最初に和具の真珠店に寄りン十万円もする豪華なネックレスやリングを夫人や家族の土産に買う人あり、爽快な気分で事に乗りパールロードに入り緑の丘をぬって車は走る、天望台で一服して更に伊勢志摩スカイラインに車を乗り入れる。朝熊山の中腹にて誰言うともなく!!商船学校が見える!!その言葉で車を止めて眼下に見える母校をくいいるように見つめる。四年間生活した処だもの誰一人として忘れられない。やがて頂上に達し金剛証寺奥ノ院に参詣、亡き旧友や家族の冥福を祈った。

遅い中食を宇治山田駅前の「大喜」でとってこんどは電車と車に分かれ多気郡明和町の斎王宮跡の記念館に行く、時恰も「伊勢物語」の特別展が開催されており、しばし平安絵巻の中に心をうばわれる。しかし、大分予定時間を過ごしてしまったので、予定を割いて今夜の宿泊場所「松阪ハイツ」に直行する。もう五時前だった。

六時から二回目の宴会となる、予め依頼しておいた松阪肉の上肉のすきやきに舌づつみを打つ、昨夜と同様に盛り上るにつれてカラオケの余興となる、デュエットで歌う永谷君御夫妻の「函館の人」には深い愛情がにじみ出ていてほほえましく、前田君の歌声は若き日、きっと鐘三ツならしていただろう美声は印象に残る、そして宇田君の扇舞は本格的に習熟されていて衣装をつけての発表会?となり絶讃を浴びた。

やがて誰いうともなく二次会へ行こうとの言葉にタクシーを呼んで松阪の紅灯の巷へ走る、今夜もみんな元気だった。

第三日目十月二十七日

長途の疲れや、二回にわたる宴会をして二次会といった密なスケジュールにも抱らず七時四十分全員朝食をとる。

幹事から今回のクラス会の会計報告があり又次回の開催に声がはずんだ。

それにつけても五十周年クラス会がこうして盛大に行なわれ恙なく楽しく閉会したことは何よりも嬉しかった。これは参加した人々が平易であっても互いに分限に応じて協力し合っていたからであると思う。

中でも治療器持参で参加され疾患のある人の室々を巡って夜遅くまで施療に当ってくれた松岡君や旅行中終始、愛車のハンドルを握って我々を運んでくれた船木君らの協力に心から感謝の意を表したい。

そして来年もクラス会で会うことを約束して別れを惜みつつ自由行動にうつっていった。

（以上）

一同勢ぞろい

十九会

昭和四十九年から始まった十九年卒の第十三回目のクラス会が、十一月十五・十六日の両日にわたり箱根小涌園で行われた。

十五日正午（晴天に恵まれる）熱海駅集合、奥さん同伴今年は八組、鷲尾君の尽力で岩田、芹沢君が初参加総勢三十四名である。

箱根は珍しくない人も多いが、貸切バスで廻る、箱根関所跡、大涌谷などをめぐって宿舎小涌園に四時頃到着する。（今年は暖たかく紅葉は駄目であった。）

充分時間があるので、一風呂浴びる。六時半から懇親会、初出席の岩田君の音頭で乾杯、久しぶりの懇談、挨拶、報告、カラオケ等で八時半までの二時間はすぐ過ぎてしまう。

席上、年齢ももう六十なかば、ここ二～三年が出席者も最多、以後次第に人数も減少するのではないか、来年は昭和十六年入学以来五十年目を迎える。そこで次回は鳥羽に決定する。そして、我々の場合は最初からクラス会の資料や写真が比較的多く残っているので、次回の分まで入れて記念誌を残そうということになった。

八時半寮歌をうたって教会、部屋に戻って十一時頃まで歓談する。しかし、年齢のせいか年々静かになっていく。

翌日は曇天であったが、御殿場や滝の白糸、柿田川湧水等主として三島方面を観光し三時半JR三島駅で来年鳥羽での再会を約して帰途につく。

なお、榎本夫妻は引き続き日光の観光へ、名古屋在住の十名は二泊三日の伊豆半島一周の旅に向った。

今回のクラス会の計画の中心は鷲尾君と事務局担当の山本君の二人であり、そのご尽力には参加者一同感謝の気持で一杯である。

我々の場合は、昨年三ツ石君のお骨折りで後藤君の初参加があり今回また、鷲尾君のご尽力で岩田・芹沢両君の初参加者があった。

これで四十九名中まだ一度も出席されない人は五名に減少した。

来年は入学から五十年目、末出席の人はぜひご参加を。

（浅野記）

出席者（夫妻組）

榎本、山本(醇)、井村、三ツ石、右高、宮崎、鷲尾、山本(太)

（単身組）

浅野、岩田、勝野、桜田、角、芹沢、夏秋、長谷川、間宮、本橋諸岡、後藤、鈴木(貞)、松本、松本、村井、村木、山内

（皆出席）

山本(太)、井村

伊豆新島へのクルージング

一九年（十二月）組が中心になった新島クルージングは全ったくユニークな海の旅の企画でした。十一月十六・十七・十八のことでした。

◇竹橋桟橋全員集れ

出港が二十二時なのに一時間前から幹事諸君は乗船手続買物の準備等々唯々頭の下る思いである。

四十五六年振りの対面もあるが同じ「釜のめし飯」と昔の言葉通りなつかし少年でありたる昔を語り会えばその距離全ったくゼロにてなってしまうものである。

◇久々に会いたるも

鳥羽の子で

六十路すでに半ば近くに

○かめりあ丸は鳥羽っ子の元船長機長の小グループだ船首にもスクリューがあること、横に船は移動出来る語らい新しくも珍らしい話である。

夜明前の大島は未だ寝ているのであろう灯が淋しい。

◇大島は未だ目覚めて

おらぬらし

山黒々と灯明し

◇新島に第一歩

八時一〇分岩壁にかめりあは、定規で線を描いたように素直に横着けなった。

村長市川君が出迎えて居て呉れた正に五十年振りの再会である。

「ヨオしばらく」しっかり握手をすれば少年の頃の温りが伝わって来た。

白を基調とした島新島は若く生きとしている

○白い島新島

ところどころに

モヤイがほほえんでいて

そこはかとなく

クサヤのにほいいの島

流人の島

やさしい鳥の老人達

古くて新しい島

それは新島

おそい朝食を旅館で（大のや）ある。

六時から宴会　飲んで語れば少年の頃の鳥羽のこと寮のこと話はつきない。

誰ということなく水泳の歌、寮歌、日本丸の歌すっかり鳥羽の海の子になっている。

カラオケも又良し、余興も良し宿の海の幸又良ろし。

杉島　中島
大久保　中山
鷲見　小林
根本　関口
石田　土屋
市川
中田
松岡
岸

夜の更けるを知らず。昨夜のつかれを癒す為か寝ると決めつけた人島の名勝を訪れる人そ民族館、流人の暮長栄寺のたたずまい見るも行くところはじめて物珍しい。

島の老人たち朝なお墓に花を捧げると言う先祖の墓を大切にすることは南の島の特別な事であろう頭の下る思いで。

次の日は村長自らのガイドで島を隅なく廻る。モヤイあり小学校あり中学校あり高校あり警察あり裁判所あり生活には事かかないのである。

まぶしいような海、杭火石を原料としたガラス工場はユニークは島唯一の製産工場と言えよう。クサヤ漁業、杭火石と島は生きている、モヤイがいい、。

男が泣いた洋上慰霊祭

幹事がにくいくらい気を使って呉れているに又々頭が下る。帰えり船で亡くなった友がきを利島沖洋上で慰霊しようと言うセレモニーの企画何とユニークなことであろう。

用意した酒、花、菓子を海に投じ乍ら亡き友がきの名を呼びました。誰となく「海ゆかば」をと歌い始めると夫々唱和し声を出す人ハーミングの人声は出さないけれど目に涙を浮べ泣いているではないか、男が泣いた洋上慰霊の一時であった、船部屋に帰ってしばらくシィンとして酒を飲むのを夫々は止めてしまったものであった。

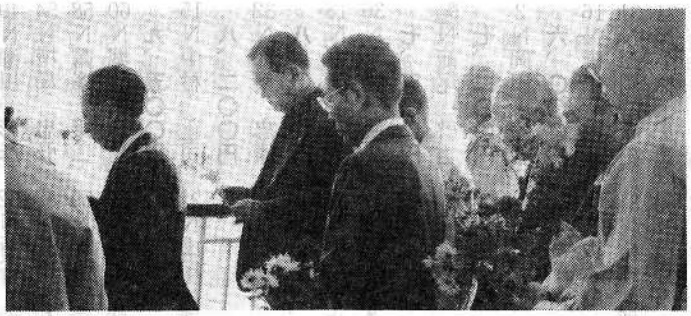
東京に着くまで語らい浜松町駅で再会を期して西に東に別れていった。別れは淋しいものだ。

○出席したクルージングマンは次の六十路を過ぎた海の子である。

○一九、（12月）組　中島好康・大久保徳夫・鷲見照夫・杉島昇・関口常春・根本明・石田輝昭・中山清治・中田伊佐夫・松岡光治・市川文二（菊地）

○一八会・岸望・土屋一明・小林義夫

（文責　小林）



新島海岸で　洋上慰霊祭

学校だより

☆航海・機関学科卒業式

九月二一日、平成二年度航海・機関学科の卒業式が挙行されました。前々月に通過した大型台風一九号のため、会場に当てられた第二体育館が大破し、急拠第一体育館に変更となりました。

しかし、例年になく海運界や陸上関連産業が好況のため、ほぼ全員が希望どおりの就職・進学となり、祝賀パーティ会場でも華いだ雰囲気が醸し出されていました。

今回、航海学科から三名の女子の卒業生を送り出すことになりましては、同窓会の皆様方にもいろいろと就職についてご協力を賜り有難うございました。二名が船会社に航海士として就職できたことを深く感謝しております。

☆海学祭

恒例の海学祭が十一月十、十一の両日実施されました。平行して父兄懇談会が行われた関係もあり、校内には、多数の父兄や外部からの参観者がありました。今年のテーマは「君の瞳に輝きを」でした。

新しい試みとして、鳥羽丸の巡航があり、希望者が多過ぎて乗船できない人もありました。

お天気に恵まれ、学生達は楽しい一日を送りました。

☆攻玉社学生の来校

例年姉妹校攻玉社の中等部学生が関西への修学旅行の際本校の近藤先生記念碑に参拝されますが、今年度も去る十一月十二日に来校されました。

前夜宿舎において学生に対し本校村林教官が近藤先生についての話をされました。

☆JICA研修生来校

十一月十三日、JICA（国際協力サービスセンター）による開発途上国からの上級リモートセンシング研修生（二ケ月間日本で研修）一行九名が、海洋リモートセンシング研究のため本校で研修を受けました。研修項目は、GMSひまわりの直接受信システムの運用、データ解析、極軌道衛生NOAAの受信システムの運用、データ解析等を中心としたものが選ばれました。

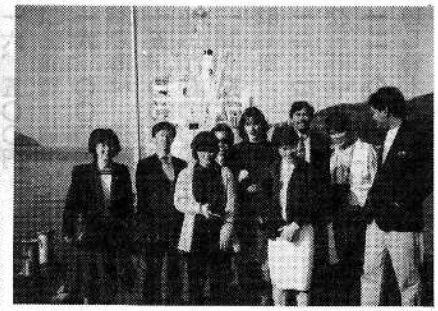
フイリッピン、タイ、韓国、インドネシア、ブラジル、マレーシヤからの研究生が、実際のシステムを使って熱心に研修しました。なお指導には気象学担当の落合が当りました。

☆マラソン大会

恒例の校内マラソン大会が十二月四日、堅神地区を巡廻するコースで実施されました。

男子は三周七・五キロ、女子は二周五キロで、クラス対抗、個人別に入賞が規定されています。最近の傾向として、見学したほうが良いという学生が増加したのは非常に残念です。切角自分の体力、気力をためす良い機会を自らつぶす気持は理解できないものがあります。

人工衛星データ受信システム実習



JICAによる開発途上国からの研修生鳥羽丸見学

現住所不明者

会員一欄

現在、新名簿作製中です。御存知の方は非御一報下さい。

島村清太郎（T－10－N）
砂子亀一郎（T－10－N）
小山俊（T－14－N）
大井充（S－3－N）
都築荘治（S－4－N）
中村伝（S－4－N）
伊藤政春（S－5－N）
小島秀雄（S－5－N）
館林嘉一郎（S－5－N）
馬場高（S－5－N）
永田数男（N－6）
藤原治男（N－6）
泉守之助（N－7）
矢野三千二（N－6）
神田邦郎（N－7）
小西庄二（N－7）
杉本茂（N－7）
田畑久蔵（N－7）
富田正二（N－7）
川瀬林一（N－8）
松林群八（N－8）
野中貞夫（N－9）
平等野穂積（N－9）
納富実（N－10）
中山博（N－12）
城下洋（N－13）
鳥居照明（N－14）
藤波猛（N－16）
橋本英男（N－19）
山本尚平（N－19）

原田善夫（N－19－12）
伏田正治（N－19－12）
家長典彦（N－21）
小比木昭二（N－21）
湖口民男（N－21）
沢藤敞（N－21）
竹内功（N－21）
出口光彦（N－21）
服部達男（N－21）
藤田太三郎（N－21）
由井昭典（N－21）
植田敦美（N－22）
萩間和夫（N－23）
町田澄男（N－23）
阿原亘（N－24）
豊城貞二（N－25）
二宮弘行（N－25）
林亨（N－25）
水野武男（N－25）
笹井俊彦（N－27）
下川英之（N－26）
伊藤惇（N－28）
笠木次郎（N－28）
杉沢要（N－28）
宮本清治（N－29）
中村洋（N－31）
渡辺明（N－31）
阿部定夫（N－33）
高橋忠男（N－33）
森岡義文（N－33）
伊藤紀彦（N－34）
佐々木満（N－35）
塩島勉（N－35）
田村孝夫（N－35）
浜田徹（N－35）
奥玉健（N－36）
佐藤昭雄（N－36）

田中稔三（N－36）
植杉侃央（N－37）
古川忠広（N－39）
川田克也（N－40）
中久木公彦（N－40）
前田良平（N－40）
若林秀一（N－40）
浦上達夫（N－41）
浦野一夫（N－41）
戸崎正志（N－41）
横田順二（N－41）
岡田清（N－42）
高崎俊夫（N－42）
大辻善久（N－42）
野村憲二（N－42）
池田俊夫（N－43）
森島年生（N－43）
伊藤義助（N－44）
岩本健司（N－44）
尾形忠比古（N－44）
森本康博（N－44）
山下政一（N－47）
畑光徳（N－47）
天白則彦（N－48）
藤巻建樹（N－48）
古橋正至（N－48）
石鍋光雄（N－49）
中川省平（N－49）
桃木高雄（N－49）
吉田均（N－49）
大和田三郎（N－50）
川上祐規夫（N－50）
本田光明（S－50）
井上次彦（N－51）
菅原秀樹（N－51）
千道英雄（N－51）
谷村勉（N－51）

黒田晴彦（N－52）
中北昌樹（N－52）
大島博之（N－53）
山中揮一（N－53）
池田龍悟（N－56）
石井真（N－57）
山内智矢（N－61）
大畑英樹（N－62）
野中将（N－62）
磯谷三郎（E－2）
中本長吉（E－2）
山口三太郎（E－2）
河野通夫（E－3）
高橋仁治（E－3）
清水壱郎（E－4）
近藤広（E－5）
寺田正夫（E－6）
大高利夫（E－6）
永田彰（E－6）
伊藤秀一（E－7）
光武正（E－7）
内田正人（E－8）
五島守（E－8）
柴原保（E－10）
江崎英雄（E－12）
島田明夫（E－12）
中川五郎（E－12）
伊藤道夫（E－16）
佐藤大地（E－19－12）
瀬戸照男（E－19－12）
一之瀬哲三（E－21）
小田肇（E－21）
鈴木義教（E－21）
田村通郎（E－21）
山本理智夫（E－23）
大菅鷹彦（E－24）
久郷昭次（E－24）

餅田尚（E－28）
柴田光男（E－29）
田中隆行（E－29）
畑和之（E－29）
西田梅太郎（E－31）
岩城宏（E－32）
谷川雅俊（E－33）
宮崎仁志（E－32）
野原勝（E－33）
上野紀佳（E－34）
藤岡宏志（E－34）
柴山和宏（E－34）
西沢精三郎（E－35）
坂倉修（E－36）
伊藤孝（E－36）
松永安雄（E－37）
白石侵治（E－38）
森井健蔵（E－38）
小出鎮男（E－40）
樋口謙次（40－E）
秋山錠次（E－41）
鈴木浦圭次（E－41）
加藤道夫（E－41）
谷水栄（E－41）
杉本孝敬（E－42）
林田耕作（E－42）
藤巻二三年（E－42）
保坂宣（E－42）
神崎謙二（E－43）
川合敏雄（E－44）
森下純二（E－44）
北象次郎（E－47）
深川雅通（E－47）
大沢優晴（E－48）
荒波秀昌（E－49）
河合竹裕（E－49）

斎藤章弘（E—49）
鳴瀬義弘（E—49）
柳生茂芳（E—49）
佐野実（E—50）
田中幸夫（E—50）
内藤誠治（E—50）
福原忍（E—50）
推名由郎（E—50）
池村康志（E—51）
酒井幸徳（E—51）
田辺睦夫（E—51）
村山祐輔（E—51）
山本秀史（E—51）
小びつ雄司（E—52）
久田隆司（E—52）
蜂谷守（E—52）
後藤一郎（E—52）
山崎岳志（E—52）
竹尾友智（E—52）
糸井賢二（E—53）
高田雅雄（E—54）
時田准（E—54）
小池直喜（E—55）
鈴木潔（E—55）
高橋正人（E—55）
宮野斎（E—55）
山口徹（E—55）
柴田孝成（E—56）
貝沼貴司（E—58）
酒井工（58—E）
永井和幸（E—58）
中村浩司（E—58）
野口雅人（E—58）
毛利法泰（E—58）
乾元（E—60）
長谷聡徳（E—60）
本間勝（E—60）

朝日輝男（E—61）
萩原隆（E—61）
山口純一（E—61）
中島秀人（E—62）
吉岡一弥（E—62）
大川和道（E—62）
木瀬良平（E—62）

桑名で「うなぎ」を
召し上れ
52N　山下栄司会員
新城
三重県桑名市中央町二丁目二一
電話〈〇五九四〉二一—九四一六

募金趣意書

時下益々ご清栄のおとお慶び申し上げます。

さて、すでに皆様新聞報道などでご存知のように、潜水艦「なだしお」と衝突した「第一富士丸」の船長は本校の同窓生で航海学科、昭和53年卒の近藤万治君が務めており、またその海難審判も先日結審し、司法裁判へと司直の裁きを受ける事となってまいりました。

彼も事故発生以来、精神的にも経済的にも非常に苦しい立場に立たされていると推察されます。

私共はこの事故の司直の判断に異論を唱えるものではなく、同窓生として鳥羽という地で学生時代を過ごした仲間の精神的、経済的な一助になればと思い発起した次第です。

この主旨に御賛同、頂ける皆様からの浄財を募り、彼を少しでもバックアップする事が出来ればと思います。

再度のお願いとなりますが皆様の暖い御支援の程をお願いいたします。

昭和53年卒有志一同

尚御賛同される方は、御手数ですが、下記住所迄現金書留にて送付をお願いいたします。

〒451
名古屋市西区城西四丁目三一—九
河合純二（クラスメート）
TEL〇五二—五二一—五〇〇八

死亡者一覧

下記の会員の死亡連絡がありました。謹しんでお悔み申し上げます。（受付順）

新会員名簿発行案内と発行日変更についてのお詫び

前号から新会員名簿の発行についてお知らせして参りましたが、発行予定日を平成3年1月下旬と遅さざるを得ない状況になりましたことをお知らせするとともにお詫び申し上げます。その理由としまして下記のような事情があります。

1．現住所不明の会員数が意外に多く、皆様方からの情報をお待して新会員名簿の充実をはかりたいわけです。

2．新会員名簿発行については予算は全く計上されていませんので、皆様方からの予約と、広告料ですべての経費を賄はなければなりませんが、予約数が予定の600に達しておりません(現在350名)のと広告料についても予定額に達しておりません。

まだ予約されておられない会員の皆様方のご購入を強くお願いするところであります。本部事務局員一同に対しまして一層のご協力をお願いいたします。

新会員名簿広告募集

新会員名簿発行に際しては、前会報でお知らせし、また各支部長さんを通じて協力をお願いしております。すでにかなりの会員より内諾及びすでにご送金を賜っております。

新会員名簿の単価を下げるには、予約数の増加と共に広告料による補助収入がどうしても必要となります。

事業を幅広くおやりになっている皆様方も多いかと存じますのでこの際ぜひご協力をお願いします。

1　口　　5cm×8cm　　10,000円

4口で半ページ(B5版)、8口で1ページとなります。皆様方の1口が大変助かります。申込期限を平成3年1月20日と延長いたします。

どうかよろしくご協力下さいますようお願いします。ご連絡の際は会社や商店名などのロゴをお知らせ下さい。そのとおり印刷いたします。

会費納入についてのお願い

皆様方には大変お忙しい日々を送っておられることと存じます。何かにつけて母校や同窓会のことを思い出されることも多かろうと思いますが、会費未納の方はぜひご協力賜りますよう本部事務局員一同心からお願いします。

前号発行後、多数の会員から会費納入についてご協力を賜り、感謝しております。今後同窓会は会員の地位向上のため種々の計画を立案し、実行しなければなりません。そのためにはどうしても基本財産ならびに運営資金が必要となります。年2,000円の会費についてどうかよろしくご協力下さいますよう重ねてお願いします。

☆本年度まで会費納入の方も、まだ新会員名簿を注文されていない方に対しましては振替用紙を同封しました。